

令和7年度 大阪市教育局「がんばる先生支援」グループ研究A  
大阪市立南市岡小学校 公開授業研修会・講演会  
思いや考えを豊かに表現し、相互に理解を深め合う児童の育成

「子どもの『個別最適な学び』と『協働的な学び』に役立つ学校図書館運営の実践

# 学校図書館活用の極意と その実現のための極意

---

20251008

伊勢市教育局事務局 教育メディア課

読書推進課係 子ども読書活性化担当

主幹 宮澤優子

# 宮澤優子と申します

---

- ・伊勢市教育委員会事務局教育メディア課 子ども読書活性化担当 主幹
- ・Google認定教育者Lev.1・2
- ・GEG Minami Shinshu共同リーダー
- ・教育著作権フォーラム初中等WG幹事
- ・日本デジタル・シティズンシップ教育研究会専門委員
- ・農家のお母ちゃん



## 主戦場が学校図書館の学校司書です

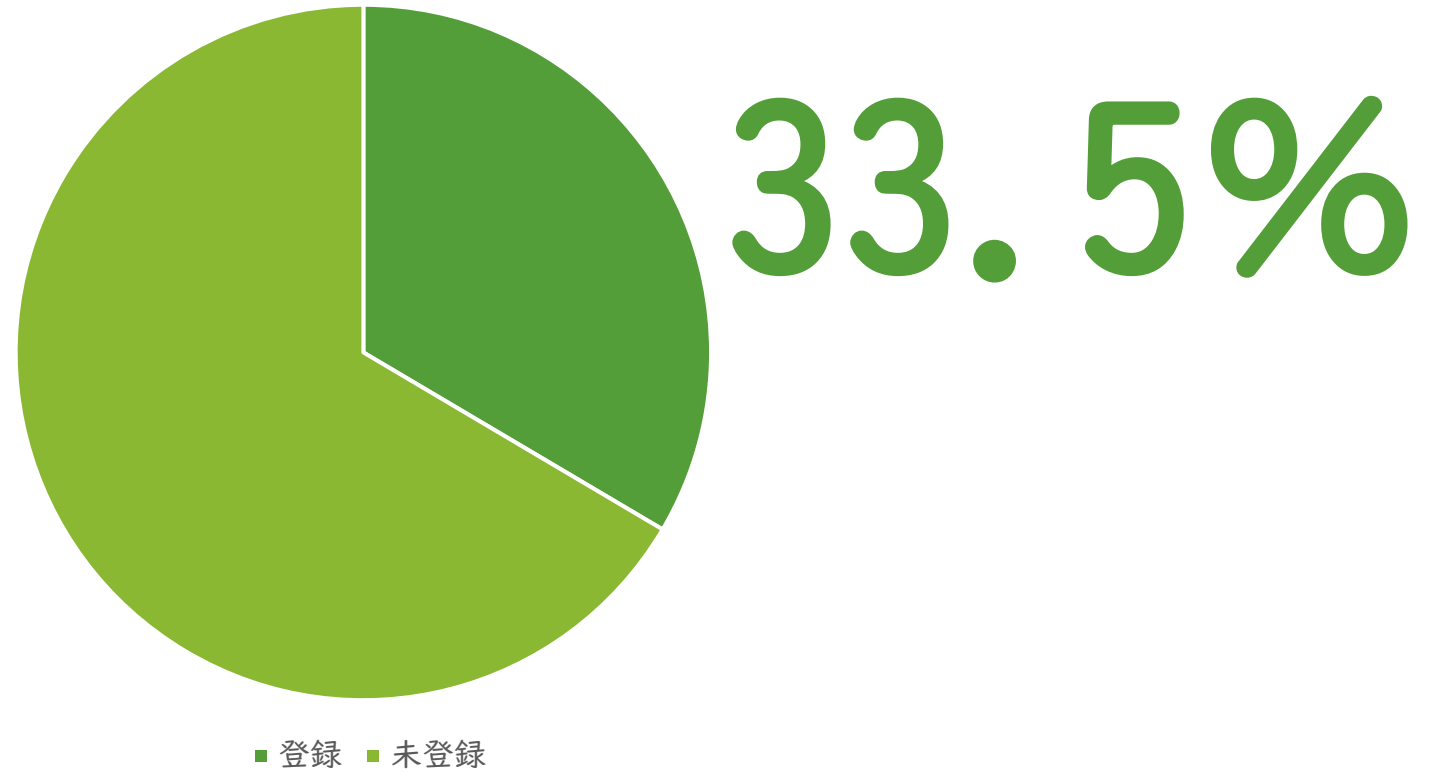
# 学校図書館の話の前に、

---

公共図書館の現状から学校図書館の在り方を考える

# 公共図書館の利用「登録」者

公共図書館利用登録数の人口に占める割合



# 誰がどのくらい 公共図書館を**利用**しているのか

三根慎二（三重大学 人文学部） 上田修一（立教大学 文学部）

## 4. 結論

本研究の結果から、

1) 公共図書館の**頻繁利用者は 14%程度**

2) 図書館の利用には、継続性が見られ、頻繁利用者、中間利用者、非利用者がいる

3) 公共図書館の利用と関係が見られた伝統的な要因は、本研究においても多くは有意であるが一部には有意差はないことがわかった。

今後は、多変量解析等を行うことによって、図書館の利用頻度と各種変数との相互関係を分析する。



# 施設の問題か？市民の問題か？

---

× 2割の市民しか「使わない」

○ 2割の市民しか「有効に使えない」

この状況に学校図書館はどう影響しているでしょう？

# 図書館は地域の情報拠点

---

図書館  $\neq$  「図書 = 本」 の館

「情報拠点」である図書館を  
有効活用できる市民



それを育む学校図書館



# 図書館を有効活用できる市民への 道筋

---

家庭教育

学校教育  
(学校図書館)

社会教育  
(公共図書館)

学校図書館が機能していることが前提

# 学校図書館のアドバンテージ

---

## 即効性

- 学びの場で指導が入りやすい

## 網羅性

- 全児童生徒、教職員がもれなく利用者

## 必要性

- 学習指導要領に活用が明記されている

## 確実性

- 教科学習との連動による活用の場の担保

# 学校図書館からテコ入れする理由

---

公共図書館の  
非来館者に  
リーチ

子どもたちの  
図書館  
活用能力向上

図書館  
活用能力  
獲得層が  
厚くなる

未来の図書館  
利用者像が  
変わる

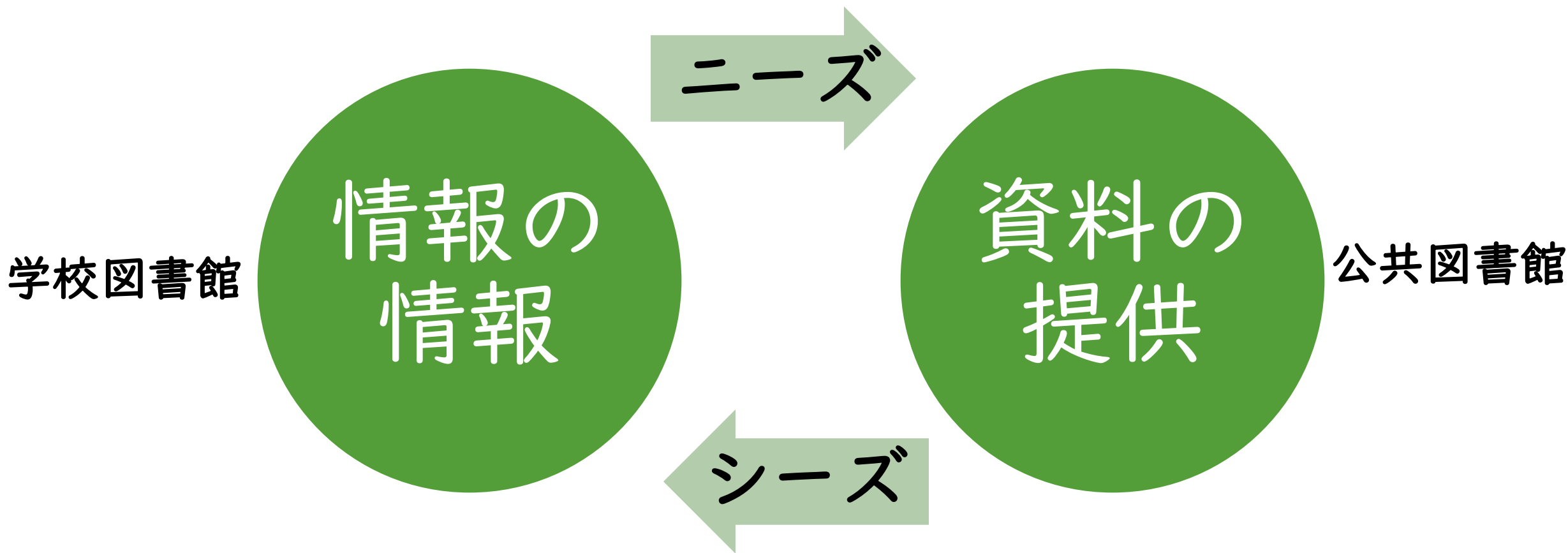
# 公共図書館との「連携」

---

一方的な「支援」ではなく、「連携」をめざして

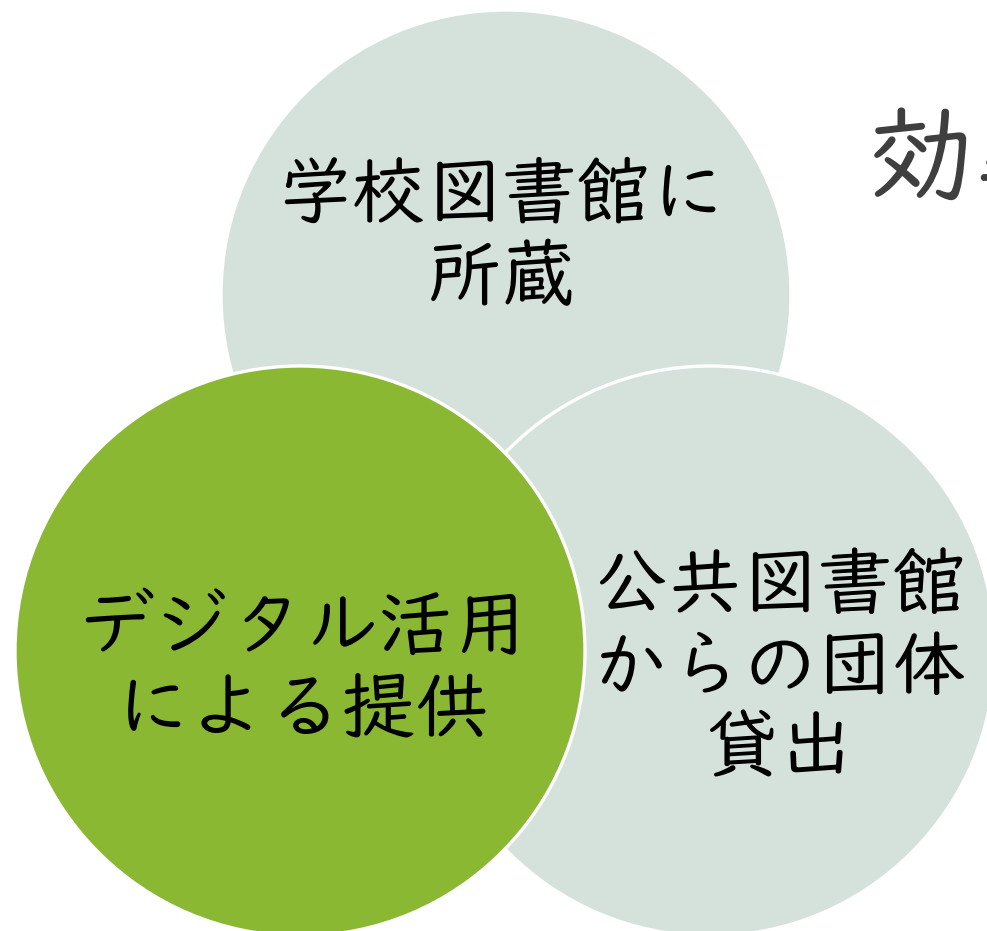
一方的な「支援」でなく  
両者による「協働」のために

---



# 提供資料（もしくは情報）のレベルと コレクション

---



## 効率的なコレクション構築

- ・ 中長期**計画**
- ・ 公共図書館との**分担収集**
- ・ デジタルデータでの**代替**



# 「協働ポイント」はたくさんある！

---

ただし！


こうしておけばいい「だろう」

こういうものが必要「だろう」

この本なら必ず役に立つ「だろう」

○年生なら、このくらい「だろう」

はお互いに禁物。



協働  
ポイント

校長は誰？

司書教諭って？

学校司書は誰？

児童生徒数は？

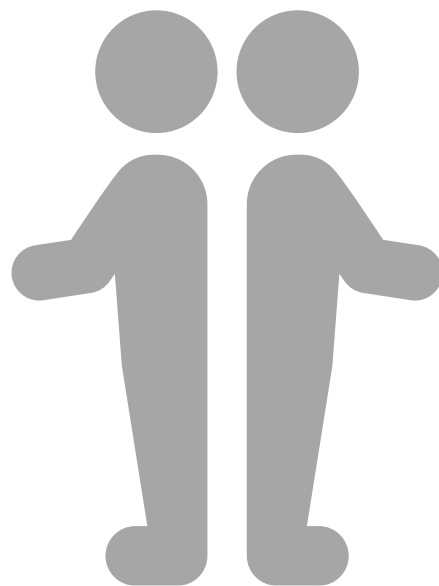
何をしてほしい？

これいるでしょ？

学習セット！

どんどん依頼して！

会おうよ！



館長は誰？

連携担当者は誰？

児童担当は誰？

蔵書数は？

何をしてくれる？

わかってない！

学習セット？

今すぐ欲しいのよ！



# 学校図書館の 環境を整える

---

～必要な環境を考える～

# I : 資料・情報が十分にある①

---

## 多様な資料・情報

- ・印刷媒体


(本・雑誌・新聞等)

- ・デジタルデータ

(デジタルアーカイブ・データベース)

- ・授業に関連しない資料・情報

→ 【効果】 出会い、刺激、ひらめき



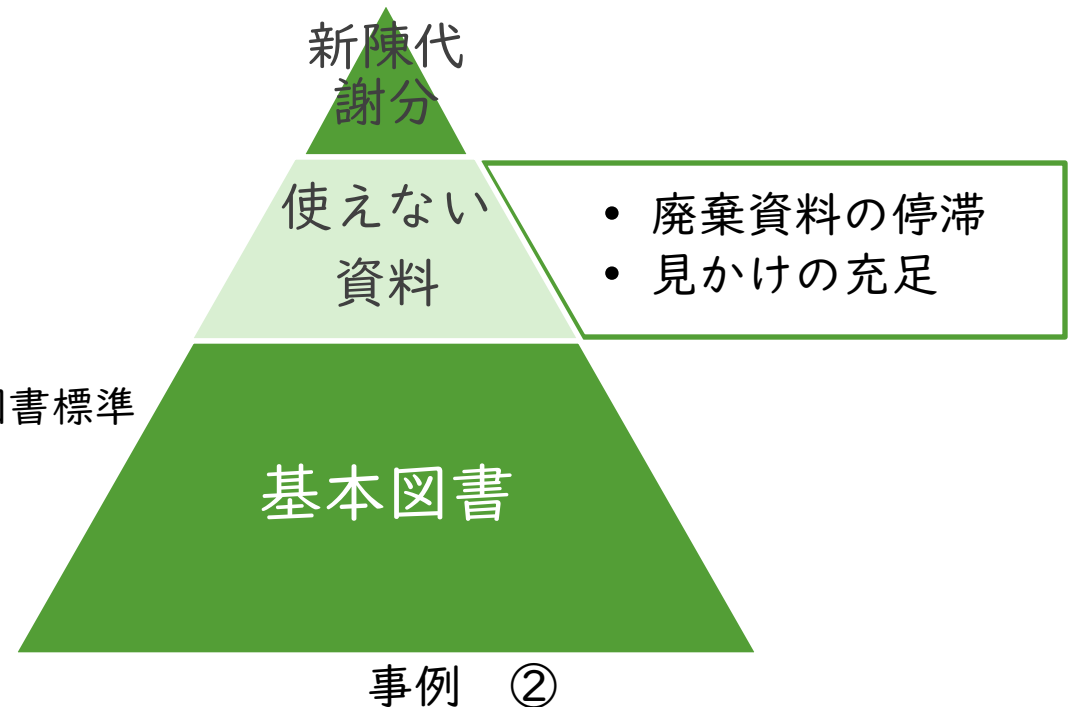
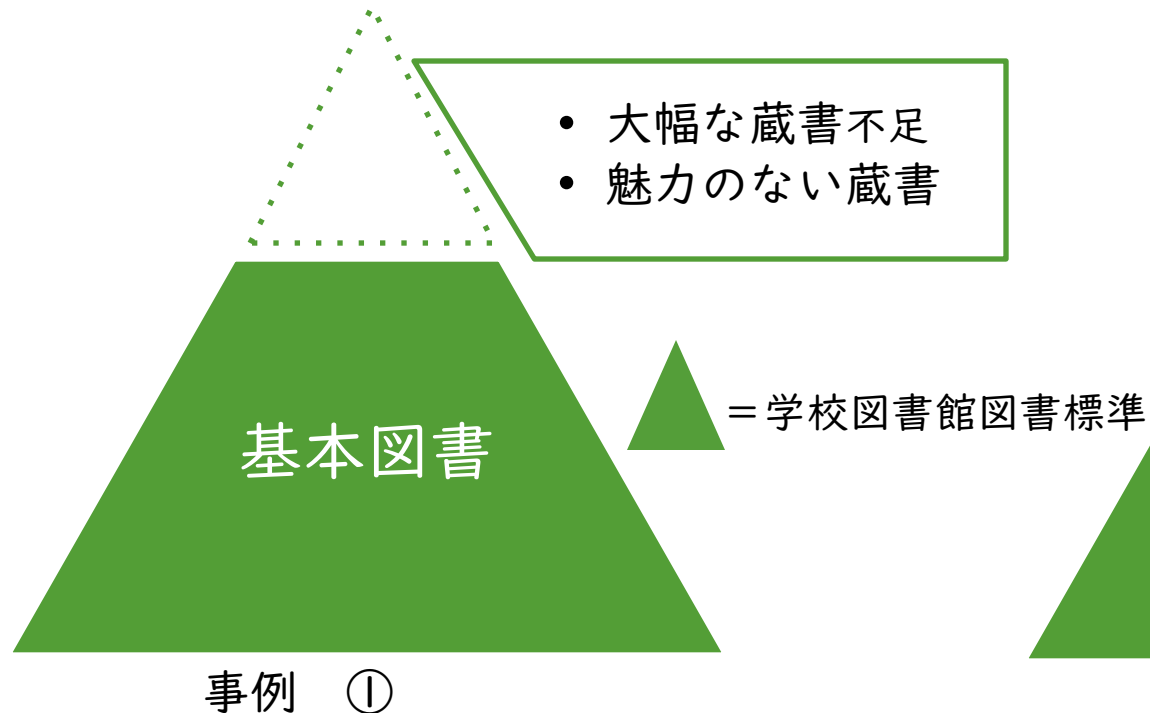
協働  
ポイント

# I : 資料・情報が十分にある②

十分な分量

・ 学校図書館図書標準

協働  
ポイント



## 2：授業活用ができる

---

- ・なんでもある
- ・全員が一斉に使える
- ・誰もが使える
- ・いつでも使える
- ・何度でも使える
- ・場がある
- ・人がいる
- ・運用・活用計画がある



### 3：図書館としての空間がある

---

多様な活動が担保された「場」

- ・さまざまな使い方ができる閲覧席

（可動式の机、電源、照明、Wi-Fi）

- ・ディスカッションのためのツール

（ホワイトボード、電子黒板、プロジェクター）

- ・クリエイティブな場

（ラボ、キッチン、スタジオ）

## 4：心理的安全がある

---

- ・ 基本的人権がある

(理不尽なルールがない・秘密が守られる・拒絶ができる)

- ・ 自由がある

(何を読んでも良い・読まなくても良い)

# 今日の授業から

---

授業者と学校司書のタッグ

# 教材の難しさ

---

## 1、現代の子どもたちの「和」の捉え

- ・ 捉えの狭さ
- ・ 捉えの不安定さ、曖昧さ

## 2、第1時で扱った「洋」との比較ができない

テーマがある



# 図書館的に見た、丁寧な導入

---

- 1、たくさんの資料で「調べる」ということの  
「価値づけ」が丁寧にされた
  - ・「資料＝情報」を「想い」と結びつけるため
- 2、調べる「こと」の再確認
  - ・「押しポイント」には自分の「意見」が入る

# 情報の担保 本もインターネットも

---

## 1、手元の資料以外の、たくさんのリリーフ資料

- ・ブックトラックにある本を紹介→司書が案内

## 2、インターネット検索

- ・使える情報を入手するときのポイントの確認

# 児童の様子から

---

それぞれの向き合い

# 本時において「活動が止まる」児童

---

- 1、 「み力」を「紹介したい！」テーマが ←授業者の支援  
据わっていない児童
  - ・ 何を調べたらいいかわからない！
- 2、 自分の「意見」と合致する情報に ←学校司書の支援  
辿り着けない児童

# Aさんの様子

---

★調べる時間の大部分を、

小さなため息と共に本をめくって過ごした。

→教員の声かけにより、推しポイントを「認知」

★欲する情報が明確になってからのスピード

=知りたいこと、調べたいことが定まらないと

調べられない

# 学校図書館活用に取り組む

---

今日の公開授業での学校図書館活用から

# 学校図書館の授業支援

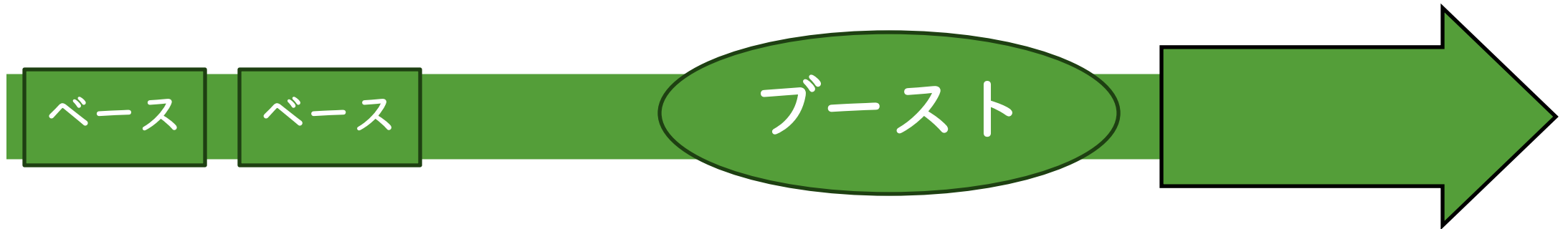
---

学びの  
ベースを  
固める

学びを  
ブースト  
する

# 学校図書館の授業支援

---



授業の流れ→



# 学びのベースを固めるための支援

---

学習の基盤たる様々な基礎知識やリソースの提供

- ・ 学びのスタートのため
- ・ 学びの基盤を固めるため
- ・ 学びのスピードを保つため
- ・ 学びが迷走しないようにするため
- ・ 学びの方向性をそろえるため

⇒ 学びの土台をかため、積まれる学びを安定させる

# 南市岡小学校の取り組み①

## 指導案 P3

- ①児童の約半数は、衣・食・住・文化について、「和と洋」の違いを「和＝日本のもの」ではなく、「和＝身の回りに昔から当たり前にあるもの」と認識していることがわかった。
- ②しかし、その他の児童は、「わからない」や「なんとなく」と書いたり話したりしていた。

- ①誤った認識をただす  
②あいまいな認識をクリアにする  
⇒学びがスタートする

# 南市岡小学校の取り組み②

---

## 指導案 P4

「最強の図書館を作ろう」をめあてに、「**日本十進分類法**」や「**本のつくり**」について理解し、図書を活用

基礎的な知識を身につける  
⇒ **学びの基盤を固める**

# 南市岡小学校の取り組み③

---

## 指導案 P4

「個別最適な学習」として、児童の主体性を促すために、児童が自分で選んだテーマについて **1人1冊資料** を確保することを重要視して学習を進めた。

全員が情報を獲得できる  
⇒ **学びの基盤を固める**

# 南市岡小学校の取り組み④

## 指導案 P5

- ①学校主幹司書が必要な情報までの二次元コードを個別に作成するなどして、調べ学習の充実を図っている。
- ②情報の安全性についても、二次元コードを生成する際に指導者が確認しているため、安全であると言える。

- ①全員が情報を獲得できる  
⇒**学びの基盤を固める**
- ②信頼できる情報の担保  
⇒**学びの方向性をそろえる**

# 南市岡小学校の取り組み⑤

---

## 指導案 P7

事前に準備した「和」のものについて、学校図書館に実物を展示したり、資料を提示したりして、その大きさや形などを実物に近い形でイメージできるようにする。

実物でイメージが明確につかめる  
⇒ **学びが迷走しないようにする**

# 南市岡小学校の取り組み⑥

---

## 指導案 P7

ハテナシートを活用して百科事典の使い方を学習する。

全員が情報を獲得できるようになる  
⇒ **学びの基盤を固める**

# 南市岡小学校の取り組み⑦

## 指導案 P12

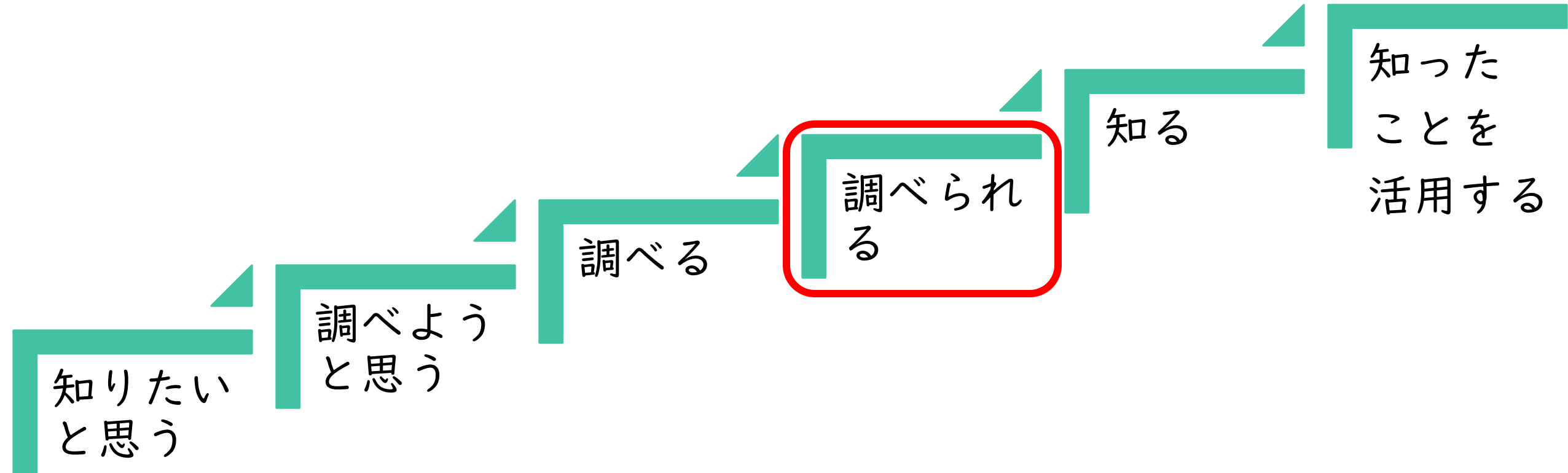
- ①資料の関係上、児童に第2希望までとり、次の時間までに、主幹学校司書と相談して、できるだけ書籍や図鑑などで示すことのできる資料を探す。
- ②必要な資料については、学校図書館の図書だけでなく、ICT端末でも主幹学校司書が用意した二次元コードを使って、児童が目的に応じて1人1資料を活用し、情報収集できるようにする。

児童それぞれのテーマに合わせ、多様な媒体で、多様な資料を、全員に準備する ⇒ **学びの基盤を徹底的に担保する**



# 知りたいことを調べ、知る 子どもたちとは？

---



# 学びをブーストするための支援

---

## 学びの拡張に資する多様で広範な情報の提供

- ・ 学習者の好奇心を刺激するため
- ・ 周辺情報、関連情報をつかむため
- ・ まったく別の視点を入れ込むため

⇒ 学びを広く深くし、次の学びの最大値を大きくつかむため

# 南市岡小学校の取り組み①

## 指導案 P5・8

- ① (P5)主幹学校司書と相談し、完成したリーフレットを学校図書館に展示し、利用する他学年や教職員に感想を書いてもらうことにした。
- ② (P7)しばらく学校図書館に展示し、学校の児童や教職員などが手に取って読めるようにする。

①学習成果物の公開

⇒自身の成果物の客観視

①他者の感想を得る

⇒評価が次の意欲につながる

②それが繰り返される

⇒活動の価値を体感する

# 南市岡小学校の取り組み②

## 指導案 P7

- ① 並行読書用の本の貸し出し
- ② 約100冊以上の図書がそろった

① 学習と連動した並行読書  
⇒ 自身の成果物の客観視  
他者の感想を得る  
⇒ 評価が次の意欲につながる

## 指導案 P8

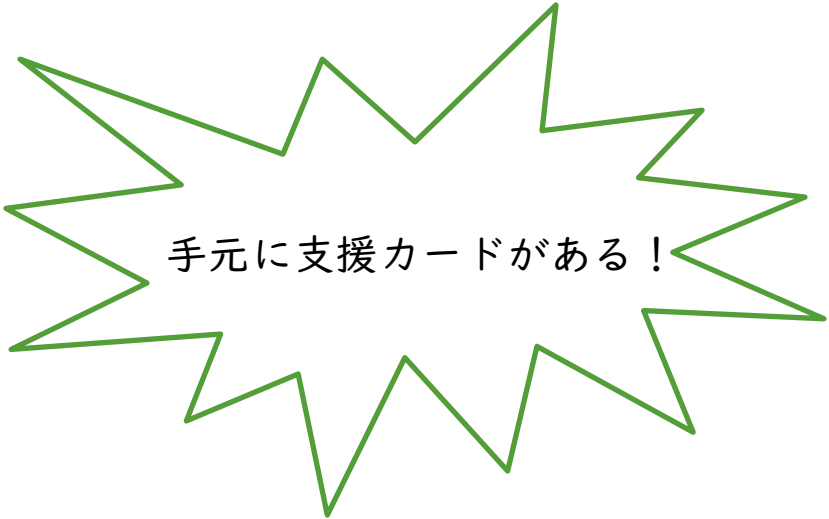
並行読書の本から記録してきた中から  
～テーマを決める

これまでの活動が、先の学習で  
活かされる  
⇒ 読書の価値を感じる

# 南市岡小学校の取り組み③

## 指導案 P8

「情報をせい理するコツ」として、要約「まとめること」と引用「文章を抜き出すこと」について**改めて確認**する



手元に支援カードがある！

目的に応じて適切な図書を選び、  
情報を収集することと、  
またその情報を整理してまとめる  
⇒ **既習事項を実際の学びに生かす**  
**コンピテンシーの獲得**

# 資料・情報提供の 一般的な手順と 今回の検証

---

南市岡小学校の場合

# 手法 A

---

①授業者が授業を組み立てる。



②司書はその授業の計画に沿って、必要と思われる場所、時間、ボリューム・内容などを把握した上で、資料の準備・提供を実施する。

・どんな授業がされるのか？

・何をねらうのか？

## 手法 B

---

①授業者が授業を組み立てる段階で  
学校司書も加わってアイデアを出す。



②授業者はそれをもとに授業計画を立案



③学校司書は支援を準備・提供する。



# 資料・情報提供の手順①

---

あらかじめ全学年、全教科の調べ学習単元および  
資料提供可能単元をピックアップ

- ・何年生の、いつ頃の、どの教科、どの単元なのか

## ポイント

- ・年間指導計画、教科書会社のHP、教科書、指導書などから把握できる

## アイデア

- ・教科書改訂のタイミングで図書館用の年間計画を作ればしばらく使える

# 資料・情報提供の手順②

---

## 教科書と指導書から、単元の流れを把握

- ・ねらいは何か？
- ・どういう活動なのか？  
(知るだけか？書き出すのか？比較するのか？)
- ・どうアウトプットするのか？

### ポイント

- ・まずは自力でしっかり調査する  
＝授業者の負担軽減が利用につながる

### ヒント

- ・指導書は授業者に借りる
- ・教科書は図書館の公務用として購入

# 学習のながれ

## つかむ

教科書のトピックを中心に、その周辺も含めた幅広いトピックから、自分の課題をつかむ

## しらべる

個人の課題をテーマに設定し、そこを深く知る

## まとめる

学習を振り返り、その過程をまとめる・アウトプットする

# 学習のながれに対する 資料・情報提供 = ○

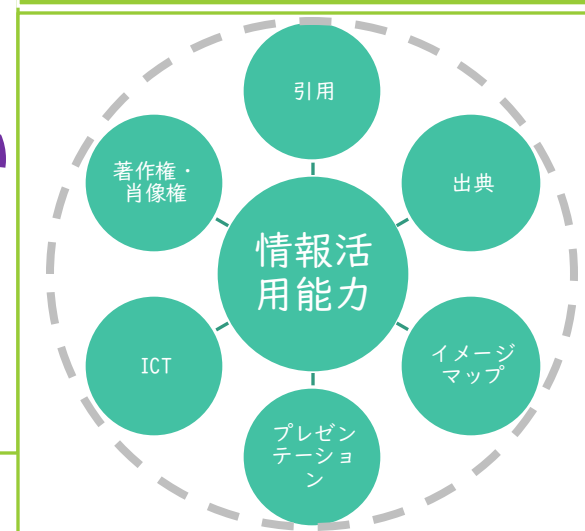
つかむ



しらべる



まとめる



# 資料・情報提供の手順③

---

## 授業の進め方についてヒアリング

- ・ 資料、情報活用のタイミング
- ・ 教材研究用資料の必要があるか？
- ・ 個人追求（個人でのテーマ設定）の有無  
（テーマが出揃う時期、共有方法やタイミング）

### ポイント

- ・ 短時間で、確実に記録ができるように

### ヒント

- ・ ICT活用
- ・ 双方の負担軽減と記録の一石二鳥

# 資料・情報提供の手順④

---

指導内容に合わせた

「提供資料に**含まれるべき情報**」の把握

- ・この本ではなく、こういう内容の本という情報が必要
- ・何が書かれていなければいけないのか？を把握する
- ・必要な情報量、ボリューム

## ポイント

- ・×「車の本」
- 「車の●●が書かれている本」
- ・隣接キーワードに該当する資料も必要

## ヒント

- ・朱書きの情報がかなり有効

# 資料・情報提供の手順⑤

---

## 必要資料の所蔵状況、出版状況の調査

- ・何を提供できるか？
- ・何が足りないのか？
- ・どう手配するか？
- ・いつまでに手配できるのか？

### ポイント

- ・いつからいつまで、何冊必要なのか？

考慮の上、手配

- ・デジタル情報も必ずチェック

### ヒント

- ・公共図書館の団体貸出を活用
- ・その場合は、手順④の情報を確実に共有

# ねらいに合わせた「使い勝手」





# 存分に使ってください！

使うことで、  
使われることで、  
学校図書館活用のレベルが上がります

# 提供資料（もしくは情報）のレベルと コレクション

協働  
ポイント

## 上級 どんな形態でも情報を抜き出せる層

- もはや一般書のほうが、無駄に情報に制限をかけずに提供できることもある

## 中級 ある程度学習に沿った構成であれば、情報を抜き出せる層

- 教科書や支持そのままのキーワードやレイアウトがなくても、調査そのものに大きなストレスがないづくりの学習資料

## 初級 教科書や指示とほぼ同じ体裁でなければ情報を抜き出すのが難しい層

- キーワードやレイアウトが教科書や支持から大きく逸脱しておらず、ストレスなく活動ができる学習資料

基本的に

# 読書案内はオーダーメイド

読書力を判定

嗜好を掴む

読書傾向を掴む

「個」と「本」のマッチング

読書案内

基本的に

# 学習支援もオーダーメイド

追っているテーマを知る

目指すゴールを知る

提供可能資料・情報を掴む

「個」と「情報」のマッチング

学習支援

# 学校現場での学校図書館活用

---

## 学校司書の専門知識

(学校図書館を機能させられるだけの専門性)

×

## 司書教諭を中心とした教員の学校図書館活用能力

(学校図書館による授業支援パターンの把握など)

×

## 日常業務の中での無理のない情報共有

(同僚性の発揮によるフラットでコンパクトなコミュニケーション)

×

## 現代の教育観に合った活用、指導

# 学校図書館業務における AI活用

---

さらにその先へ

# AIが力を発揮するポイント

---

1. 自分から絞り出した知恵のそのさらに一回り外を

まだまだ、まだまだ、ある、、、

2. 提供した範囲が、子どもたちの活動範囲

狭ければ狭い、広ければ広い

どんどん深掘りしていくために

---

まずは投げてみたら、

投げる側の思考の「深度」も見える？



# 「学校図書館としてこの授業をさらに支援するためのポイントはどこですか？」

---

## 1. 情報活用能力の深化と継続的な学びの支援

現在の支援では、分類法や要約の仕方を指導していますが、さらに踏み込んだ支援が可能です。

- ・ **情報の信頼性の評価：** インターネットから情報を得る際に、どの情報が信頼できるかを見分ける力を育む指導を行うことができます。例えば、複数の情報源を比較する、出典を確認するといった方法を教えます。
- ・ **デジタルツールとの連携：** 文章をまとめる際に、タブレットやPCのデジタルツール（共有ドキュメントやプレゼンテーションソフトなど）を導入し、グループでの共同作業を促すことも考えられます。
- ・ **調べ学習の成果の可視化：** 児童が作成したQRコードを、授業後も図書館の掲示板などに展示することで、継続的に他の児童がアクセスできる環境を提供します。

# 「学校図書館としてこの授業をさらに支援するためのポイントはどこですか？」

---

## 2. 多様なメディアの活用と紹介

図書だけでなく、多様なメディアを活用することで、より多角的な視点から「和」について探究できるようになります。

- ・ **新聞・雑誌の活用：**新聞の切り抜きや雑誌の特集記事など、最新の情報を扱う資料を紹介し、時代ごとの「和」の捉え方の変化について考察する機会を提供します。
- ・ **視聴覚資料の導入：**和食の作り方や伝統工芸の職人技を記録した動画、伝統音楽の音源などを紹介し、五感を使って「和」の魅力を感じられるようにします。

# 「学校図書館としてこの授業をさらに支援するためのポイントはどこですか？」

---

## 3. 成果発表の場の拡充と交流

現在の成果発表の場をさらに広げることで、児童の学習意欲を高めることができます。

- ・ **全校生徒への発表機会の創出：** 児童の成果物を図書館内の特設コーナーに展示するだけでなく、全校集会や学校公開日などで発表する機会を設けることで、より多くの人にその学びを伝えることができます。
- ・ **他学年との交流：** 高学年の児童が低学年の児童に「和」の魅力をプレゼンテーションするイベントを開催するなど、学びを伝える側になることで、さらに深い理解に繋がられます。

あなたの現場で  
次にすることは？

～ピックアップと実装に向けた行動を～